

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	7
基本施策	2	林業の振興	評価	産業振興課長 石井 弘道
単位施策	2	多面的機能の発揮	責任者	

1 施策の概要

基本方針	町内森林の多面的機能を発揮させるため、魚つきの森の育成等による上下流の生態系の確保、水源涵養・災害防止につながる治山事業の推進、森林体験の拡大、特用林産物・バイオマスの研究等を進める。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	地球規模での環境保全に対する意識の高揚から乱伐を抑制し、山林地域における水源の涵養や環境の保全を行っている。	森林を適切に維持管理することによって、土砂の流出防止や水源の涵養など森林の多面的機能が高度に発揮されるよう、北の魚つきの森等の整備を進め、環境保全を行っている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	森林の多面的機能を発揮させるため、魚つき林の育成などによる上下流の生態系循環の確保や水源涵養・災害防止など治山事業の推進が求められている。	恒常化しつつあるクマ、シカ等野生動物による被害等により、森林の多面的機能の発揮に支障をきたしており、これらを抑制する効果的な対策が必要となっている。

2 基本施策指標

指標1	指標名	町有林・民有林の人工造林面積						
	定義等	町有林・民有林の人工造林面積						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	57.0ha(H18)	64.2ha	63.1ha	81.0ha	50.1ha		60ha
指標2	指標名	町有林・民有林の除間伐面積						
	定義等	町有林・民有林の除間伐面積						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	262.9ha	388.8ha	516ha	247.3ha	225.5ha		300ha
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	生活環境保全林維持管理事業	林務係	1,326	A	継続/現状維持	A
②	林道維持管理事業	林務係	11,543	A	継続/現状維持	A
③	みどりと親しむ町民のつどい	林務係	724	A	継続/現状維持	A
④	森林情報緊急整備事業	林務係	1,799	A	終了	A
⑤	北の魚つきの森環境整備事業	林務係	29,571	A	継続/現状維持	A
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	豊富な森林資源を有する本町の山林を活用することが、森林の多面的機能の発揮につながる
② 有効性	A	各種施策により、水源の涵養や環境保全が図られ多面的機能の発揮が図られているので有効と判断する。
③ 効率性	A	予算の有効活用及び事業費削減、業務の効率化を図っている。
④ 公平性	A	森林が持つ公益的機能の恩恵を誰もが享受している。
⑤ 町民意見の反映	A	多面的機能の発揮に係る各種施策は関係機関との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
各種施策により、多面的機能の発揮が図られており、今後においても必要不可欠な施策である。	同左	

今後の方向性	今後の方向性	今後の方向性
継続/現状維持	継続/現状維持	
豊富な森林資源を有する本町の山林を活用することが、森林の多面的機能の発揮につながり、今後においても一層の充実が必要がある。	同左	
*今後の方向性の区分 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止		